

# あしたの風

第95号

令和4年9月1日 発行  
編集発行 秋田市教育委員会  
生涯学習室

秋田市の生涯学習



秋田竿燈まつり  
～3年ぶりの開催～

☆☆土崎地区☆☆

何かやらねば

土崎地区生涯学習奨励員 成田善明

「何かやらねば」「何かやらねば」。

生涯学習奨励員を拝命してからは特にあせりにも似た思いである。

私は元々好奇心は旺盛な方で、色々な事に興味を持ち、様々な事に手を出して来た。

小学生の頃はウクレレ、中学に上がってギター、油絵も少し画いた。

高校に入ってから短歌や俳句。大人になってからは茶道や焼き物に手を出したこともあった。

今思うに、これまで触れた事柄は全て長続きせず「かじった」というよりは「なめた」程度のものだったと情けない。

昨今、友人知人たちの中には文芸系やらスポーツ系やらと趣味の域をはるかに超えた一芸を持った人が増えて来ている。なんと素敵でうらやましい事か。

時々色んな方からそれぞれの芸に誘ってもらうが、今のところ仕事と畑が忙しくお断りしている。

人は「時間はつくるもの」と言うが、それがなかなか難しい。

仲間とは畑で野菜をつくって、特にニンニクは年に百キロほど収穫して、販売もしている。

このままだと今の「晴耕雨読」だけの生活からぬけ出せないかも…

何かやらねば…である。



今は、仲間と畑での野菜づくりに夢中



ウクレレ、ギター、油絵等、色々なことに興味を持った。

☆☆東部地区☆☆

秋田の魅力

絵の力で全国へ広げたい

創作工房 TERRA 小寺 正

小学校から高校まで、好きな油絵やデザインを勉強し、いろいろな展覧会や個展等の開催により力を蓄えてきた。高校卒業後広告代理店を起業し、五十五年間勤務・経営し、令和二年退任した。

秋田県民の多くは全国に誇れる秋田の名物や名産品を県外へPRする力が不足しているように私には思える。

昨今、あらゆる分野のキーワードにSDGsや地産地消・資源の再利用等がさげばれておる中、私は今絵画を通して秋田の魅力や名物、名産品を県外に発信する活動をしている。

絵を描く材料、素材は廃棄するものの再利用だ。たとえば稲庭うどんや各種木製の空き箱、ダンボールや各種紙製の空き箱、スポンサー名(宣伝用)のうちわ、日本酒やタオル等の入っていた木製や紙製の空き箱等だ。これら棄てる物を再利用して作品にしたものとは、木箱やうちわ等にはハタハタや北限の椿、ナマハゲ、秋田の観光地の風景等だ。またダンボールや木を加工、ブローチにして秋田の名物、名産品を制作している。

作品は年四〜五回位展覧会に出品したり個展を開催して発表している。また、完成した作品は秋田市仲小路「食器のさかいだ」、道の駅おが「オガール」で展示販売している。



男鹿市船越「無印良品男鹿店」



秋田市仲小路「食器のさかいだ」



道の駅おが「オガーレ」

大型の油絵は、秋田駅トピコ三階レストラン街「秋田港」で一〇〇号の『ハタハタ』が展示、秋田橋台カントリークラブのレストランで一〇〇号の『椿』が展示、男鹿市船越「無印良品男鹿店」のコーヒールウンジに大型タペストリーが展示されている。  
詳しくはインターネットやインスタグラムにて小寺正でご確認してみてください。秋田県民それぞれが身近な秋田の良さ、魅力を全国へ発信したいものだ。

☆☆ 北部地区 ☆☆

つながる追分

金足地区振興会副会長

(追分町内連合会長)

藤原 正三

北海道から客人を迎えることになりました。日頃から町内会とお付き合いをさせていただいている金足農業高校の教頭先生からのご紹介です。お客様は北海道のNPO法人「炭<sup>ヤマ</sup>の記憶推進事業団」の理事・石川さんと、札幌街歩き研究者・和田さんのお二人です。

石川さんから連絡があり「北海道安平町の追分駅を全国に広めたい。ついでには追分駅と名の付く地域の方々と交流を深めたい」とのこと、今秋十月に「つながる『追分』オンライン交流会」開催を目指しているそうです。鉄道駅で漢字二文字の追分駅は全国に四つあり、安平町追分駅（開業一八九二年）は今年一三〇年、秋田県追分駅は一二〇年、滋賀県一〇一年、三重県一〇〇年を迎えます。

最長老の安平町追分駅は、炭<sup>ヤマ</sup>から産出される石炭を本州に向けて運ぶ鉄道輸送を担い、日本の近代化に大きな役割を果たした歴史があります。そんな北海道の客人に秋田の追分駅をどう説明したら良いのか、少し悩み、考えました。

江戸時代、羽州街道と男鹿街道が分岐する三叉路だった追分は、菅江真澄の日記・スケッチに見られるように集落はありません。飛び砂を防ぐ海岸砂防林の整備が進んでようやく家が建ち、明治以降次第に集落が形成されました。駅開業後は駅前に農業倉庫が作られ、産業組合（後の農業協同組合）発足により追分駅前は周辺農村地帯の中心地として発展し、黒川油田大噴油もあって県内外からの往来



街歩き研究科・和田哲（さとる）さんと、奈良環之助頌徳碑前で



旧斎藤旅館前で和田さん・斎藤秀孝さんと

も増えました。農業を支える水源の確保のため水利組合（現土地改良区）も追分駅前に置かれ、加えて農業の発展に欠かせない人材育成のため農学校を追分に誘致したことが大きかったと思います。  
そうした当追分の歴史を概観した結果、①駅前の奈良環之助翁の頌徳碑、②追分三叉路の石仏地藏堂、③金足農業高校、④奈良家住宅、と案内して回り、最後に大正二年船川線（現男鹿線）開業時の追分駅写真と当時の駅前・旧斎藤旅館の写真を見て振り返ることにしました。  
お二人が次の訪問地、滋賀県に向かう前に、追分駅到着メロデー「どじょっこふなっこ」誕生秘話を語り、金農野球「雑草軍団」OBの北海道日ハム吉田投手の話題で大盛り上がりとなりました。  
こうして「追分駅つながり」で楽しいひとときを過ごすことができたのも、地元町内会の方々からご教示ご協力をいただいたおかげ様と思います。深く感謝申し上げます。

# ☆☆河辺地区☆☆

## 三年ぶりの竿燈に感謝

河辺地区生涯学習奨励員 石塚 小枝子

「国重要無形民俗文化財」の竿燈まつり初日は、朝からのどしゃぶりが嘘のような晴天となり、まつり関係者の三年ぶりの強い思いが込められた竿燈だったと感動した。

私自身、事故、怪我人が出ないことを祈りながら交通整理を行い、ゆっくり竿燈を見られずとも、町内、企業、団体など六十二の竿燈会、二百三十八本の竿燈「光の稲穂」が、大勢の観客を魅了させてくれた。

遠くから見える稲穂には、私にとって特別の思いがある。昨年米寿を迎えた、尊敬、感謝する母へ「百歳まで頑張れ！」との願い、コロナの収束、一日も早く人々が笑顔になれるようになど、今年は特に色々な思いが溢れてきた竿燈まつりだった。

太鼓と笛のおはやしが響く中、差し手が重さ五十キロの大若を、手のひらや、額、肩、腰で上げる妙技には、ここ数年の実行委員の熱い思いが伝わってきて、ぐっと来るのを抑えながらの交通整理だった。人出は四割減との報道だったが、「ようこそ、秋田の竿燈まつりへ」「ありがとう」「お疲れさま」と観客へ声をかけると、子どもから大人まで笑顔で労いの言葉を頂き、立ちっぱなしの足の痛みも忘れさせてくれた。

会場に来場した全ての方々に笑顔で対応すること、それが自分に出来る私のおもてなしだと思つて、十代から六十代の妙技を終えた方にも、笑顔で「お疲れさま」と声をかけた。

妙技会では、演者が疲れというよりは笑顔が浮かんでいる印象を受け、とても元気づけられた。文化を守り続ける竿燈会の皆様には、「お疲れさま」、そして、「秋田、日本中の人々に元気を伝え

ていただきありがとうございます」と、声を大にして感謝の気持ちをお伝えしたい。  
来年は「どっこいしょー」の声かけが、今まで通り出来れば良いと思う。また、私自身も、こうしたまつりがなければ出会うはずのなかった「人とのつながり」を大切にしていきたい。  
最後に、まつりに参加した皆様、元気をありがとうございます。

## 文化会館時代の サークル活動で思う事

センタースサークル協議会

会長 袴田 代志富

現在私達が活動の拠点としている市役所三階のセンタース（愛称）の前は、秋田市文化会館の五階（愛称サンバル）を中央公民館サークル協議会として活動していた。

今般の秋田芸術会館（愛称ミルハス）の新設に伴い、秋田市文化会館はその役目を終え、解体されるのが決定されている。いざ解体となると寂しい思いがこみ上げてくるが、短い期間の活動場所ではあったものの、秋田市文化会館という活動レガシーの中に、その思いを引き継いでいきたいと考える。

その一つは一年間のサークル活動の練習成果を広く市民の皆さんに公開し、見て頂くために始めた「サンバル祭り」がある。会館地下を会場に各サークルが工夫を凝らし、始めた事が多くの市民やサークル同志の交流にもつながり、それが現在の「センタースまつり」へと受け継がれていることはうれしい限りである。

もう一つは、中央公民館を活動の拠点としていたサークルの歴史は幾多の会場変更を余儀なくされた歴史でもあった。そんな中で中央公民館サー

クル協議会に集う多くの仲間で作成三十周年記念式典を文化会館で実施することが出来た事は歴史の巡り合わせと意義深さを感じる次第である。  
文化会館跡地に刻まれるサークル協議会のレガシーはいつまでも続くことを願うものである。



いざ解体となると寂しい思いがこみ上げてくる



サークル活動の成果や交流は現在のセンタースまつりへと引き継がれている

## ミルハスの見学報告

八月十二日、あしたの風編集委員会有志で、今年度オープンした「あきた芸術劇場ミルハス」の施設見学会を行いました。

同施設では、秋田杉がふんだんに使用されているほか、樺細工や川連漆器、大館曲げわっぱなどの伝統工芸品が随所にちりばめられており、参加した方々からは感嘆のため息が漏れていました。

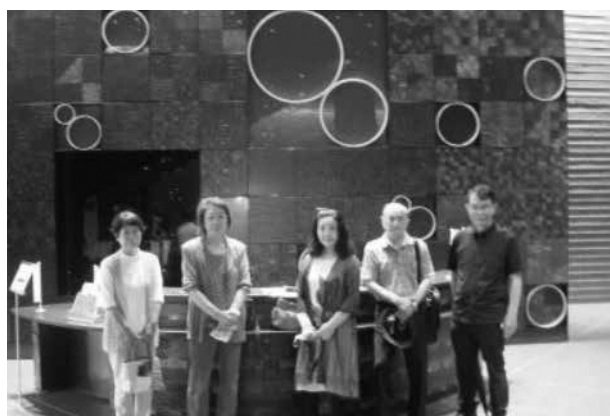
見学に協力して頂いたミルハスのスタッフの皆様にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。



大ホールの客席にて記念撮影



ミルハスからの景観に皆さん大満足



受付の曲げわっぱ、樺細工



伝統工芸の意匠が随所に取り入れられている

（所感）  
エントランス付近の情報発信スペースやカウンターでは、談笑を楽しんでいる方、勉強に励まれている方など、すでに多数の方々にご利用されている様子でした。  
館内は広々とした空間が多く、大変見応えがありました。また、ロビーなど大部分のスペースでは、飲食も可能だそうです。  
さらに、有料ではありませんが、作品の展示等も想定しており、今後の生涯学習活動の拠点としても、重要な役割を果たしていくことが期待されております。



中ホールの緞帳は豪華絢爛！

表彰者紹介

令和四年度

秋田県生涯学習奨励員協議会表彰

保坂 せい子 (土崎)  
佐々木 みどり (河辺)

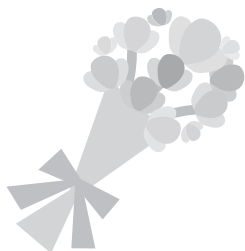
令和四年度  
市の記念日式典における表彰

加藤 久行 (中央) 金子 真悟 (中央)  
佐藤 富子 (中央) 石川 和夫 (西部)  
畠山 育子 (南部) 佐々木タエ子 (雄和)

右記の方々が表彰されました。  
おめでとうございます。

今後ますますのご活躍をご祈念申し上げます。

※敬称略



編集後記にかえて

生涯学習においては、現代社会とは劇的な変化が連続する時代であり、私たちはまなびを継続することによって、時代の変化に対応していかなければならない、と総括される。しかし、元号が変わったからというわけではないだろうが、肌感覚では、ここ数年、歴史的とも言っているほどの大事件が多発しているように感じられる。今もって収束の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症の流行には始まり、ウクライナ危機、元首相の銃撃事件など、どれも歴史の教科書に記載されてもおかしくない、衝撃的な事件ではないだろうか。

日常生活にあっても、食品や燃料などの生活必需品の物価高や、痛ましい幼児虐待のニュースなど、景気のいい話、明るい話はなかなか聞こえてこない。これからも世の中が絶え間なく、予想のつかない方向に変化していくものだとしても、私たちの生涯学習については、明るく楽しく、より良い社会を目指して学んでいくという姿勢を変えることなく、実践していきたい。

(石塚)



編集委員 (秋田市生涯学習奨励員)

佐々木 孝 (中央) 佐藤 美枝子 (土崎)  
佐々木 裕佳子 (西部) 坂田谷 義憲 (東部)  
藤原 博子 (南部) 中泉 雪子 (北部)  
石塚 小枝子 (河辺) 石井 榮美 (雄和)



『あしたの風』第九十五号

発行年月日

令和四年九月一日

編集発行

秋田市教育委員会生涯学習室

秋田市山王一丁目一番一号

電話 〇一八―八八八―五八一〇

この広報誌は

発行部数 一一〇〇部

配布方法 無料配布